

研修担当職員研修

～ これからの人材育成を学び合う ～

目的

地方公共団体における人材育成に関する動向を探り、その意義と研修担当者としての役割について理解を深めます。

内容

人材育成の意義 【丹野 修・本田 幹枝】

- 人材育成の必要性
- 人材育成基本方針の動向
- 研修とは
- 研修担当職員の役割

対象・日程等

対象者：研修担当職員

日 程：令和6年4月19日(金)

定員数：60人

場 所：東北自治総合研修センター

準備物

令和6年度研修概要（本冊子）

研修PR

生産年齢人口の減少、働き手側の価値観の多様化、デジタル社会の進展等により、地方公共団体を取り巻く環境は大きく変化しています。また、複雑・多様化する行政課題に対応する上で、「人材育成」の重要性が高まっています。

本研修では、「研修」による人材育成の推進を図るため、職場における研修担当職員の役割を学び合います。

講師

たんの
丹野 修

宮城県市町村職員研修所 調査研究員



■経歴

昭和56年4月宮城県入庁。税務、水産林業、市町村、土地対策、青少年行政等を担当し、税務課長、監査委員事務局監査監、総務部理事兼消防学校長を経て、平成29年3月に定年退職。

特に、市町村行政を支援する市町村課での税務・財政業務、加美郡3町合併協議会での合併協議・新町建設計画業務、地方税滞納整理機構の設置・市町村税滞納額縮減業務、消防学校での教育訓練・人材育成業務など、市町村行政の充実強化及び市町村職員の育成業務に長期間従事。

平成29年4月から宮城県公務員研修所、宮城県市町村職員研修所における地方公務員制度、キャリア・マネジメントの研修講師。

国家資格キャリアコンサルタント

ほんだ
本田 幹枝

宮城県市町村職員研修所 調査研究員



■経歴

昭和60年 塩竈市入庁

東北自治総合研修センター設立期、宮城県市町村職員研修所において、研修科目開発・企画運営に関わる。その後は主に教育・文化行政に携わる一方、CS接遇やコミュニケーション、職員としてのマナーなど実践者の立場で研修講師を担う。

令和5年度から宮城県市町村職員研修所勤務となり、CS理論と接遇指導者養成研修の講師を務めるほか、構成自治体での接遇講師も実施している。

キャリアカウンセリング、コーチング、日本エンアグラム学会会員。地域活動では公益財団法人菅野美術館評議員。

タイムスケジュール

10:30	11:50	12:40	15:30
(研修担当者会議)	休憩	研修	閉講

※本研修は、研修担当者会議内で実施します。会議の開催通知に併せ別途通知します。